

Annual History of Seibukai

2022



2022

昇級審査会 (3/20)

第 136 回組手トーナメント・第 1 回型トーナメント (3/27)

師範セミナー (5/3)

2022 清武会カップ (6/5)

昇級・昇段審査会 (6/26)

合宿代替えセミナー (8/7)

昇級審査会 (9/18)

千葉大会 (9/19)

第 21 回全日本ウェイト制空手道選手権大会 (10/16)

第 137 回組手トーナメント・第 3 回型トーナメント (11/27)

昇級・昇段審査会 (12/25)

昇級審査会 3/20



第136回組手トーナメント・第1回型トーナメント 3/27

他道場も参加するトーナメント形式での型試合が、通常の組手トーナメントと共に開催された。組手での試合は先天的身体の優劣が勝敗に大きく関わってくるが、型の試合はどれだけ身体意識を高め、練り、型を理解出来たかがポイントとなる。これは性別や身体の大さは関係なく誰にでもチャンスがあるという事だ。組手の試合同様、型の試合なので勝ち負けの判定は下されるが、「負ける事は悪い事ではない」という清武会の理念の基、今後の型・組手トーナメントにチャレンジして頂きたい。



回を重ねるごとに向上する選手達の動きも必見だが、各道場の型の風格の違いを見比べられるのも型試合を観戦するうえでのポイントだ。



型3・4年優勝
内藤沙羅（平塚）



組手小学5年3位
型5・6年優勝
福山直義（平塚）



型1・2年4位
加藤葵（平塚）

師範セミナー 5/3



1部琉球古武道 2部大東流合気柔術 3部大東流&古武術の内容で行われた。琉球古武道セミナーでは上級の武器法を学び、2部3部の合気柔術セミナーでは力を抜いて力を出す技術を学んだ。現在は動画等で知識を簡単に手に入れる事が出来るが、技術として体に入れるには地道に稽古を繰り返すしかない。簡単なようで難しいところであり、だからこそやり甲斐があると言えるのではないか。



1部 琉球古武道参加者





2・3部 大東流・古武術参加者

2022 清武会カップ 6/5



感染対策を講じ、通常とは勝手の違う運営ではあったが、選手・関係者のご協力を仰ぎ無事に開催する事が出来た。また今大会より型の試合が開催される事となった。目標やチャンスが増えたので、モチベーションの維持に繋げ、是非1年の稽古の成果を清武会カップで見せて頂きたい。



組手小学5年優勝
型5・6年優勝
内藤沙羅（平塚）

組手小学6年3位
型5・6年3位
福山直義（平塚）

組手小学6年4位
森海空（平塚）

型3・4年3位 井領れみ（平塚）
型3・4年4位 井領るり（平塚）

型中学優勝
富高湘乃介（平塚）

昇級・昇段審査会 6/26



一般部初段 須崎風斗（上大岡）

合宿代替えセミナー 8/7

2022年も合宿は代替セミナーとして開催された。現在より上級の技術を習う事で身体意識のステージも一段高くなる。また習いたいという気持ちは物事の上達には必須だ。合宿（代替セミナー）でしか習えない技術があるので、この機会を逃さないで頂きたい。



少年部は上級の型、逆技、ヌンチャク、棒、組手の稽古を行った。
道場に持ち帰り反復練習して身に着けて頂きたい。





一般部は清武会 YouTube で公開されている技術とレベルに分かれての稽古となった。
一般の道場生は師範の技を間近に見て、一般稽古のその先にある清武会の空手への道が見えたのではないだろうか。稽古・セミナー・合宿を通じて技の完成まで歩んで行きたい。



2022代替セミナー参加者

昇級審査会 9/18



千葉大会 9/19



第21回全日本ウェイト制空手道選手権大会 10/16

軽量級 兄遼久続き心路が二度目の優勝

中量級 安定した強さを見せ大場が優勝

無差別 ライバル対決を制した大内が無差別級初優勝



優勝 郷心路（無限勇進会）
準優勝 竹内琉空斗（武道空手練）
3位 田熊透（武道空手練）
4位 篠宮城光（清武会）



優勝 大場孔揮（無限勇進会）
準優勝 宮西幹也（修心會館）
3位 中川大嘉（小嶋道場）
4位 森大雄（いわき極真坂本）



優勝 大内巨成（城西三和道場）
準優勝 石井和人（小嶋道場）
3位 若佐建輔（武心塾）
4位 大山貴志（小嶋道場）



軽量級

離れては長いリーチを生かし、接近しては強烈な突きを繰り出す郷。本線上段蹴りがヒットするもポイントにはならず引き分け。両者さすが軽量級というスピーディーな攻防だ。延長に入ると郷が積極的に技を出し竹内は下がる展開に。最後まで展開は変わらず郷が軽量級を制する。昨年に続き郷兄弟の強さが際立った決勝戦となった。(左・郷)



中量級

宮西の下段蹴り、膝蹴りは強烈で積極的に攻めていくのだが、大場は上手く内股への蹴りや下突きを返していく。中盤から大場の下突きが効き始めたか大場ペースに。終盤は宮西の腹に下突きを集め本戦で宮西を下し優勝を飾った。大会時大場は 16 歳。驚異のチャンピオンが誕生した。(左・大場)



無差別級

過去何度も手を合わせている大内と石井だが、9月に行われた千葉大会無差別級の決勝では大内が石井を下している。お互い手の内は知っているだけに気持ちの戦いになった。お互いに突き下段蹴りの攻防になる。延長は大内が仕掛け石井が返す展開。試合は再延長に入り、結果は常に先に仕掛けた大内に旗が上がった。一ヶ月前に戦ったばかりの二人は決してベストなコンディションではなかった筈。決勝の両者からは勝敗を超えた戦いを見せてもらった。(左・大内)



第 137 回組手トーナメント・第3回型トーナメント (11/27)



組手小学 1 年 3 位
小林結逢 (平塚)



組手小学 1 年 4 位
田中遼臣 (平塚)



組手小学 2 年 4 位
吉田芽功 (大泉学園)



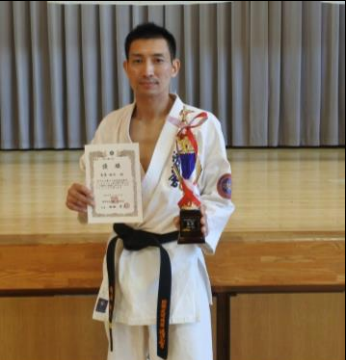
組手小学 5 年 3 位
型 5・6 年優勝
内藤紗羅 (平塚)



組手小学 6 年優勝
福山直義 (平塚)



組手一般女子中・上級優勝
田中春奈 (平塚)



組手一般上級優勝
角屋裕太 (平塚)



型 1・2 年 3 位
加藤葵 (平塚)

昇級・昇段審査会 (12/25)



一般部初段
平松
(平塚) 左
中山風海斗
(上大岡) 右